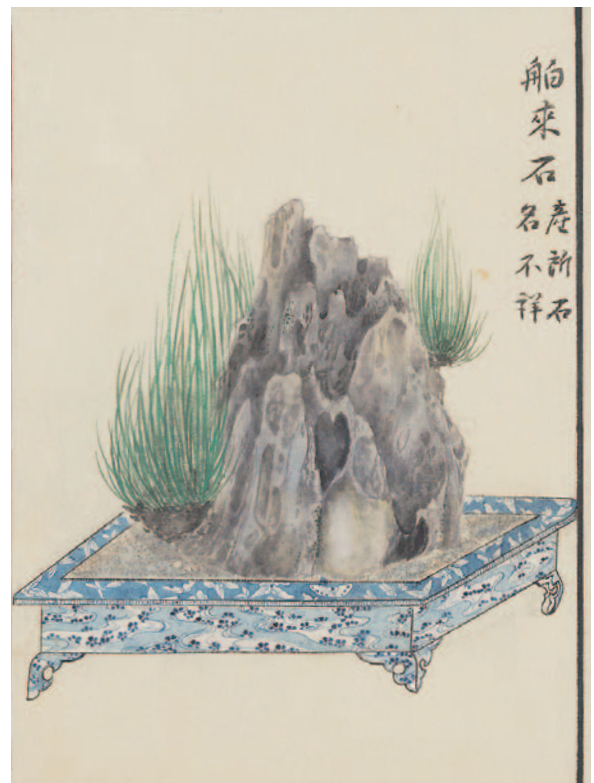
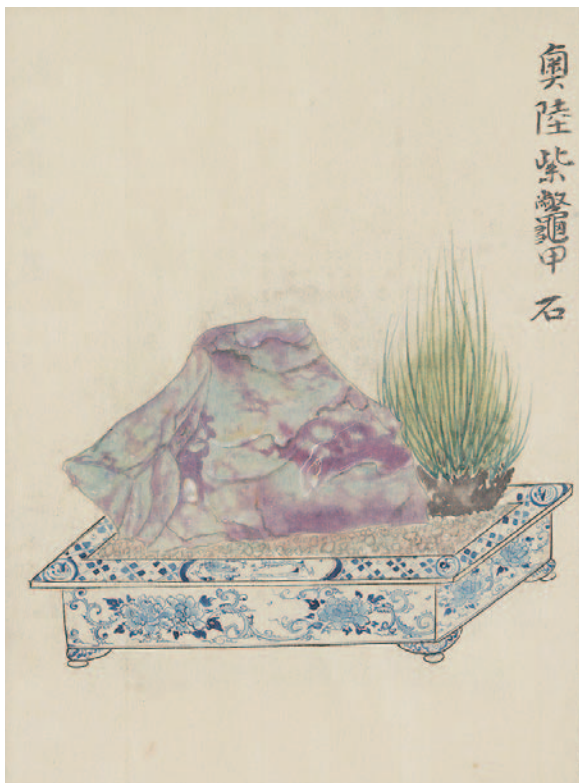
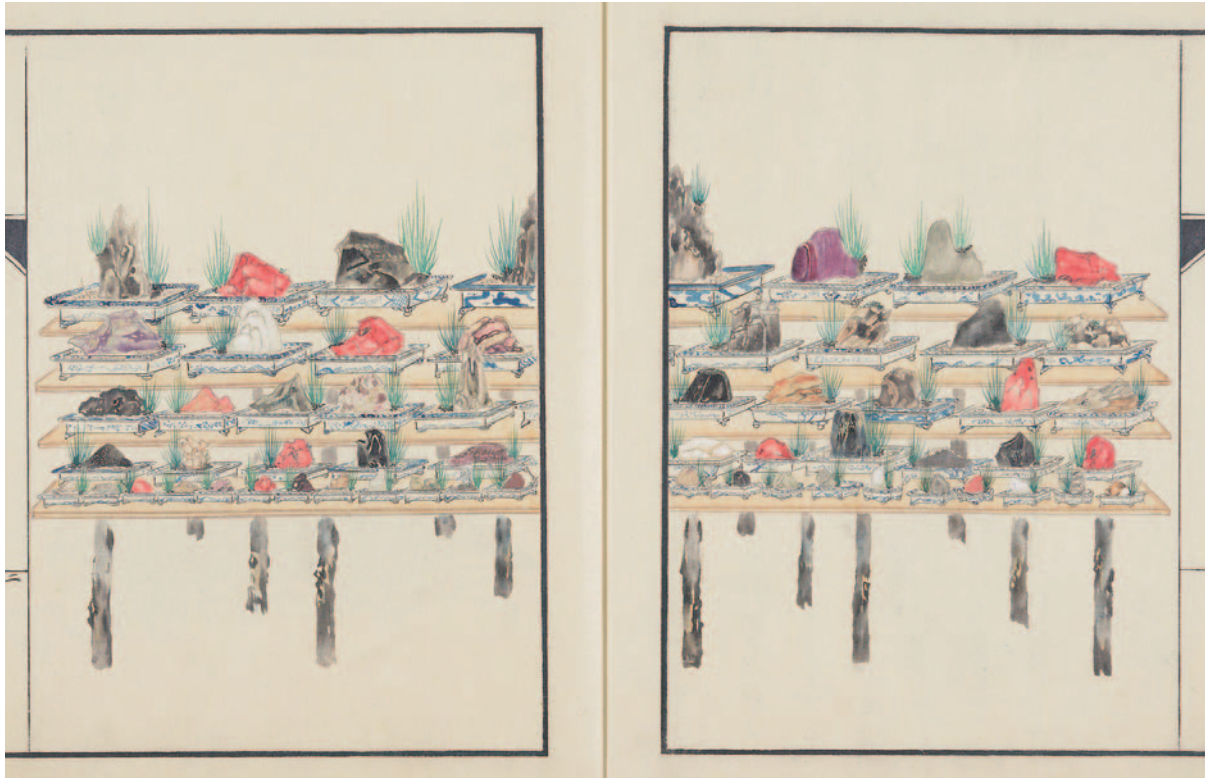


本所所蔵の画像史料

『盆菖図譜』 [溝口家史料-175]

全図は「所蔵史料目録データベース」をご参照ください。





新発田藩主の溝口直諒（1799～1858）の奇石コレクションの写生図譜。安政二年（1855）の序によると、いずれも江戸染井の花屋衆蔵（番付に石菖師と載る）から譲り受けたもので、嘉永元年（1848）より蒐集を始め、四段の大棚と別の小棚とに52種58点を配するまでになり、藩御用絵師の林勝鱗（1831～88）に縮図させた。安永三年に7点の図を末尾に追加している。水盤に石を配して石菖を植える盆山（石菖盆）の様式で、鑑賞指南書にみられる盆石の美意識をふまえた形姿の石も含まれるが、木内石亭（1724～1808）が集成したような産地・分類名称が付せられ、再現性高い描法からも、博物学的な関心にもとづく。（藤原重雄）